

「モジホコリの実験 (7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

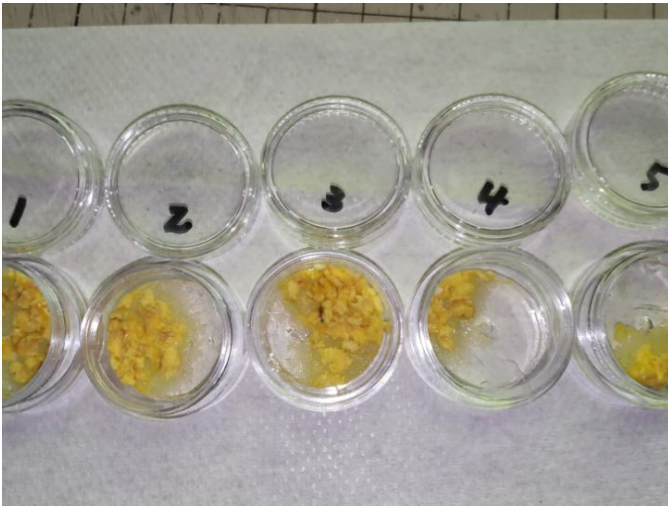
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

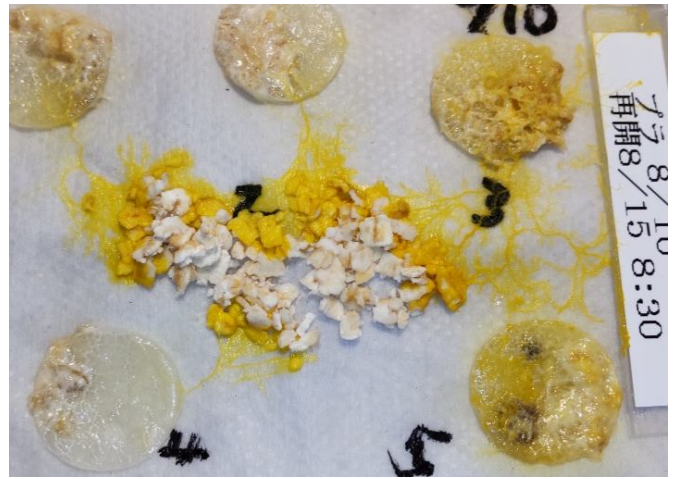
モジホコリの変形体は、生きたまま郵送も可能なはずである。私はその為に、少々過酷な実験を試してみた。



寒天培地と一緒に丸く切り取った変形体を、密閉できる容器に入れる。化粧品やクリームを小分けにして携帯する直径 3cm 程度の容器である。「わらび餅」のように楊枝に挿して移動させるのが一番良い。



実験的に試す為に、少しずつ条件を変えて、5つの容器を用意した。変形体が多いもの、少ないものなどだ。更に、横置き、縦置き、逆さ置き、明るい場所、暗い場所など、いろいろな条件で数日間密閉したまま保管してみた。インゲンマメの発芽の実験のような厳密な条件制御ではないが、多少は違いがわかるかも知れない。



「水」も「空気」も全く与えずに5日間放置し、その後湿らせたキッチンペーパーの周囲に並べ、中央に餌(オートミール)を置いて、再度活動するか実験した。結果は5つの菌体がすべて餌に向かって移動した。モジホコリの変形体は、密閉にも強いとわかった。これなら数日かかる「普通郵便」でも郵送可能だろう。



変形菌はキノコも好んで摂餌する。試しに4種類のキノコを変形体の周囲に置いてみた。



結果は3種類のキノコは、ほとんど跡形もないほど「消化」してしまった。さすがに白い猛毒菌「ドクツルタケ」だけはちょっと触れただけで退散し、全く手をつけなかった。猛毒と知っているようだ。